

## 特集「英語教育はどうあるべきか」 Part 1

# 『ニュークラウン』を使った授業の特色

1年11課 We Are Partners

日 基 滋 之

(東京学芸大学附属世田谷中学校)

### 1. はじめに

現在使われている平成9年度版 *NEW CROWN* では3大理念として、「ことばの教育」、「国際(異文化)理解教育」、「人間教育」の3項目を掲げ、教材化をはかっている。このうち、「人間教育」については「英語を学びながら、子どもたちに生活や社会の問題、人間の生き方や社会の中の自分を考えさせる」ことを目標としている。

1年11課 We Are Partners 犬ってすごいねのテーマは「人間教育(障害者、動物と人間)で、各セクションのあらまはは次のとおりである。

#### [ Section 1 ]

犬はペットとしてだけでなく、人間の手助けをしてくれます。久美のお父さんの友人の林さんは犬の訓練士です。久美は林さんに学校を案内してもらいます。

#### [ Section 2 ]

林さんはアルバムを開き、腕を動かすことのできない女性のために、電灯をつけようとしている犬の写真を見せてくれました。

#### [ Section 3 ]

久美は友人のムカミに、パートナードッグのことや車椅子の人々とその犬がパートナーであることについて話します。

Book 1 のカリキュラムでは、この課は1年3学期(1月)に扱うように計画され、4時間の時間配当である。

### 2. 「題材」内容をとらえるために

「障害者、動物と人間」をテーマにした1年11課 We Are Partners の題材では次の3本の柱を大切にしている。

- (1) パートナードッグを通して、身体障害者について考える。
- (2) パートナーとしての動物の意義を知る。

### (3) 人間と動物の関わり合いについて考える。

『Teacher's Manual 解説と指導』(以下、TM)では、題材内容をより深く知るために、その「背景の知識」として、1)身体障害者の生活環境、2)パートナードッグ(partner dog)、3)パートナードッグの訓練、4)パピーウォーカー(puppy walker)、5)聴導犬(hearing ear dog)、6)老犬ホーム、7)人と動物との関わり合いについて説明している。このような資料の扱いはコピーを生徒に配布し、「Tさんはパートナードッグについてどのように思っていますか。その気持ちの表われている個所に線を引いてください」という課題を出すことで一層作品についての理解が深まる。

ひと通り11課の学習を終えたのであれば、TM p. 319「要点把握問題」にあるように、教科書を開かせ「この課の全体をもう一度読んで、パートナードッグが、からだの不自由な人を助けていることを示す文を2つ書き出し、みんなに発表しなさい」という課題もよいと思う。ぜひ *NEW CROWN* の題材に込められた精神を生かす課題を設定したいものである。

また、*NEW CROWN* には各学年にビデオ教材が用意されており、この課では、カナダのパートナードッグの訓練風景を見ることができる。背景の知識を知る上でビデオ教材を活用することは効果的である。ビデオの日本語(あるいは英語)の字幕が不要ならば、模造紙を帯状に切り、字幕部分を隠せばビデオの映像とナレーターの英語に生徒の神経を集中させることができる。

### 3. 「言語材料」の理解と定着のために

1年11課 We Are Partners に盛り込まれている主な言語材料は次のとおりである。

- ・規則動詞の過去形 肯定文 (セクション1)
- ・規則動詞の過去形 否定文 (セクション2)

・規則動詞の過去形 疑問文 (セクション3)

TM では、「文型・文法」として、課全体を見渡した上で「過去形」について指導上留意すべき点が述べられている。以下、TM から抜粋する。

「(1) 日本語では「～た(例：話した, 食べた), 「～んだ(例：かんだ, 踏んだ)【撥音便】, 「～った(例：触った, 腐った)【促音便】と、過去を示す形が比較的単純であるが、英語の場合は次のように種類が多い。一般的には -ed をつける。look looked (以下省略)」このような日本語と英語との比較を踏まえた説明の切り口は教師にとって興味深く読めるものと思う。

また、TM の各セクションの「語・句・表現の解説」では上述した主な言語材料に加えて詳細な説明が記載されている。教科書本文の各セクションで、生徒や教師が疑問に持ちそうな語・句・表現を拾い出して解説している。教師が図書館に行き文献で語法上の疑問点を調べるといった手間や時間を軽減してくれるものと思う。

私たちは生徒が言語材料を定着しやすいようにと、日夜、自作ワークシート作成に時間を費やすが、NEW CROWN には『Teacher's Manual 授業に役立つ活動例集』が用意されている。これは<言語活動を中心とした活動例>と<題材を中心とした活動例>に分けて編集してある。各課の TRY & CHECK を補う活動として利用できる。

さらに、各課の新出文型・文法事項の定着を図るために各学年に『アクティビティアイデア集』が用意されている。言語材料の導入後の練習や学習活動の復習の場面でコミュニカティブな言語活動を行う上で役に立つ。

4. 「言語活動」を組むにあたって

さて、題材内容のポイントをおさえ、言語材料を吟味し、次に授業をどのように組むかという段階になる。しかし何もかもすべてゼロから出発するというのは大変である。『Teacher's Manual 授業案集』(以下、TM )は、授業のアイデアを提供する目的で、部「定型授業案」、部「自由展開授業案」として多くの現場の教師により提案、執筆された授業案が収められている。この授業案集に込められたアイデアをもとに、生徒の実態を踏まえて、私たち教師一人ひとりの個性を加えて授業を行うように意図されている。

校務の合間を縫って授業のたびに新しいアイデアを生み出し実践を重ねていくことは大変なことだけに、すでに同僚によって用意された指導案を利用させてもらい、それに自分の個性を加え授業を構築していけるのは便利である。



Book 1, LESSON 11 2

以下の指導案は、TM pp.96-97 から抜粋した LESSON 11, セクション 2 の指導案の一部である。

	学習内容 学習活動	指導方法・留意点	評価・資料
復習	・一般動詞(規則動詞)の過去形の作り方	・教師が過去にしたことを過去形の表現を用いながら、発話していく。 [-ed]の発音を若干強調する	・自作の絵(写真) ・前時の学習が定着しているか。
復習	・一般動詞の否定文 I did not ~.  ・新出文型・文法 I did not visit my uncle's house yesterday.	・数人の生徒にきのうあることをしたかどうか聞き、その応答に応じて、肯定文と否定文を使い分けて聞かせる。 例 Kenji watched TV yesterday. / Taro did not watch TV yesterday. etc. ・黒板に数人の生徒の名前(縦列)と動詞(横列)の表を書き、その動詞に相当することをしたかどう	・肯定文と否定文の違いを聞き分けられるか。 ・ did not の使用に気がつか。

<p>展 開</p>	<p>・新出語句 did, open, album, picture, turn, shout, explain, move, arm, need, turn on</p> <p>・本文の内容を理解する。</p> <p>・本文の音読練習をする。</p> <p>・言語活動:ペアワーク過去形の否定文を用いた表現～肯定文との使い分けに重点を置く。</p>	<p>か聞き表に x で記入していく(準備～日本語で)。 ・生徒名を主語にして、したこととしなかったことを肯定文と否定文を使い分けて表現していく。</p> <p>・過去形の否定文として did not を用いることを、現在形の do not と比較させながら説明する。 ・数人の生徒に表を再利用し、肯定文と否定文を使い分けて、話させる。 ・フラッシュカードを用いて、文字と音声を確認させる。 ・宿題として調べてきた単語の意味を確認させる。 ・単語の発音練習をする。</p> <p>・本文を見ながらテープを聞かせる。(2回) ・ピクチャーカードを見ながら本文を聞かせる。(教師) ・必要に応じて難しい表現の説明を入れる。 ・Q &amp; A, T-F で内容を理解したか確かめる。</p> <p>・教師のあとについて読ませる。 ・各自で意味内容を確かめながら音読させる。 ・数人の生徒にモデルとして音読させる。</p> <p>・動詞(句)がいくつか(6～10)記入されたワークシートに、自分がしたこととしなかったことをあらかじめ x で記入し、パートナーに肯定文と否定文を使い分けて言っていく。聞き手は相手の話を聞き取り、相手の欄に x を記入していく。相互に行う。</p>	<p>・意味内容を理解した上で、聞き取れているか。 ・否定文の作り方を文法的に理解できたか。 ・自信をもって話しているか。 *フラッシュカード ・文字の単位だけでなく、単語全体として意味と発音を確認できるか。 *ピクチャーカード *テープレコーダー ・おおまかな内容を全体像として理解できたか。 ・集中して聞けたか。 ・大きな声で読んでいるか。 ・意味を理解しながら読めているか。 *自作ワークシート ・積極的に活動しているか。 ・正確に話し、正確に聞きとっているか。</p>
<p>ま と め</p>	<p>・題材に関するもの</p> <p>・言語材料に関するもの</p> <p>・宿題の提示</p>	<p>・犬が人間社会にどう役立っているかまとめてみる。</p> <p>・「文法のまとめ」(p.99)で確認する。ワークシートをする。 ・本文を書き写し、意味内容をまとめさせる。 ・次のセクションの単語の意味調べをする。</p>	<p>・本時の要点が理解できたか。</p>

たとえば [ 学習内容 / 学習活動 ] の「本文の内容を理解する」(下線部分)では、指導案の順序を変えて、ピクチャーカードを見せながら、音声を通して内容を理解させた後、最後に教科書を開かせテープを聞かせる方法もとれる。このように指導案を教師それぞれの考えや個性にあわせ修正して利用するのがよいと思う。また、このようにピクチャーカードを用いて本文の内容を口頭導入する場合には、TM の以下のオーラル・イントロダクションが役立つ。教科書を閉じさせ、ピクチャーカードを見せながら行う。

【オーラル・イントロダクション】抜粋)  
Section 2

How do dogs help people? Look at the picture on p.81. What is the dog doing? Yes. It is turning on a light. It is switching on a light 「電灯をつける」. The woman in the picture can't move her arms (ジェスチャーで arm を示す).

その後、教科書(p.81)の欄外の Q & A を行う。

本格的にオーラル・イントロダクションを行う場合には、ピクチャーカードとその裏に書かれた詳細なリスニングインプットが役立つ。NEW CROWN には豊富な枚数のピクチャーカードが用意されており自作する手間が省けるので助かる。

5. おわりに

NEW CROWN の教科書には深い題材内容をもつ作品が多い。それだけに心に残るセンテンスも多く見受けられる。1年11課のタイトル We Are Partners やセクション3に埋め込まれている一文、They are partners. もそのひとつといえるかもしれない。

また、user-friendly な豊富な教材教具も NEW CROWN の特徴といえる。

本稿では触れられなかったが、Teacher's Manual には『授業案集(ティームティーチング用)』『Teacher's Book』『Teachers' Manual for ALTs』『LISTENING QUIZ & LET'S LISTEN 用 CD 指導用フロッピー』も用意されており、私たちの日々の授業をサポートしている。